

★海外司法★スケッチ ★ ★ ★ メイトシツプ ～オーストラリア・ヴィクトリア州の陪審制～



【ヴィクトリア州地裁玄関】



【ヴィクトリア州最高裁】



【陪審法廷の様子】

F1の開幕レース、テニスの全豪オープンなどで有名なオーストラリアはヴィクトリア州の州都メルボルン。1884年に建てられた同州最高裁判所は、林立する高層ビルの谷間にあつてなお、ゴールドラッシュの栄華を偲ばせる重厚さを身にまとっています。その対面に位置する近代的なビルが州地方裁判所ですが(写真でもエントランスのガラスに映る最高裁のレンガがご覧いただけるとと思います。), この全く対照的な2つの建物で、毎日、大勢の市民の方々が陪審裁判に参加しています。

日本では、いよいよ来年5月から裁判員裁判が始まりますが、司法に対する国民の理解の増進とその信頼の向上という理念は、陪審裁判にも共通していますの

で、私が以前、出張したヴィクトリア州における陪審裁判の様子をご紹介したいと思います。

陪審裁判では、12名の陪審員が、裁判官を交えずに陪審員同士の評議で、起訴事実が認められるかどうか(被告人が有罪か無罪か)という点だけを判断します。これから始まる裁判員裁判と違い、被告人が有罪であることを争わない事件では陪審裁判は行われませんし、有罪と判断された後に陪審が量刑について判断することもあります。他方、否認事件であれば、殺人等の重大事件でなくても陪審裁判が行われます。

このように、陪審裁判は、構成から対象事件、役割に至るまで、裁判員裁判とは様々な違いがありますが、個々の事件ごと



に陪審員が選出されるという点は共通しています。オーストラリアは、6つの州と2つの準州からなる連邦制の国であり、それぞれの州が独自の司法システムを持っていますが、ヴィクトリア州の陪審選出手続は、同国内でも効率的と評価されています。その最大の特徴は、裁判所内に、呼出等を専門に行う部署をもうけ、同部署がその日から開始される陪審裁判の数に応じた陪審員候補者を一括して呼び出しているところにあります。2002年に建て替えられた地裁

の建物内には、300名まで収容可能な候補者専用の待合室が設けられており、喫茶・新聞・雑誌等様々なサービスが提供されていました。

陪審裁判中の法廷の様子はどうか。私が傍聴したどの事件でも、まず、裁判官が、法律家の代表として、市民の代表である陪審に対して、これから数日間にわたり裁判に参加することへのねぎらいの言葉をかけた上で、裁判に参加することの意義や陪審の役割を丁寧に説明していたことが印象に残りました。証言席も法廷のモニターも全て陪審の正面に設けるなど、事実を認定する責任を負った陪審に配慮した法廷の構造になっています。連日開廷とはいえ裁判はときに2週間程度続くことがあります。陪審員は、セキュリティカードを渡されて、2日目を以降、専用の出入口やエレベータを使って、直接、法廷に接続する個々の評議室に向かいます。審理が終わると、評議となりますが、評議時間の長短に関わりなく、有罪無罪の結論を述べた後に、裁判官から、責任を全うしたことへの感謝の言葉がか



【陪審員席の様子】



【陪審候補者の待合室】



けられます。紙面の関係で紹介することはできませんが、ほかにもヴィクトリア州では、イギリスの伝統を受け継ぎながらも、陪審員の方々が気持ちよく、やり甲斐をもって裁判に参加できる工夫が凝らされてきました。

オーストラリア人の誰とでも分け隔てなく付き合う気さくな国民性は、メイトシップと呼ばれることがあります。メルボルン大学の聴講生という立場に過ぎなかった私とも、傍聴後にインタビューに応じて下さる裁判官が多く、特に親しくなった方とは食事をご一緒する機会も度々あり、帰国する際に大学で開催された送別会にも出席していただきました。このような気さくな裁判官が大勢いらっしゃることは、市民の司法参加を支えてきたのかもしれない。裁判員裁判では、裁判官と裁判員が対等な一票をもって評議に参加します。陪審員と同じく市民の代表である皆さんをお迎えする裁判所にとって、メイトシップは大切にしていきたい言葉だと思います。

(東京地裁判事 安田大二郎)